

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 3 月 20 日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	楊木 萌

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)

北海道札幌市コンベンションセンター

2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)

第 65 回日本生態学会への参加

3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)

平成 30 年 3 月 13 日 ~ 平成 30 年 3 月 19 日 (7 日間)

4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)

生態学会

5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)

写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

本年で第 65 回を迎える日本生態学会は、毎年 2 千人超が参加する大規模な学会である。本学会への参加を通して、様々な研究内容・研究者と出会い、自らの知見を広げ自己の研究に生かしていくことが本出張の目的である。

【日程】

3 月 13 日 京都→伊丹空港→新千歳空港→札幌市内
3 月 14-18 日 生態学会参加
3 月 19 日 札幌市内→新千歳空港→伊丹空港→京都

国内の学会に参加するのは初めての機会であったため、非常に刺激的で有意義な時間を送ることができた。一般公演やポスター発表、企画集会や自由集会等の様々な企画に参加することで、自分の知りえない新たな知識を得て、自己の研究に対する新たな発想や展開を得ることができた。

特に出張者も使用している GIS に関わる研究や、統計解析についての根本的な議論、また野生動物と林床植生の関係、さらに行政の立場から見た生物多様性保全活動の取り組みなどについて話を聞くことができたことは、今後の自分の活動や思考にも大きく影響するものであった。

今後もこうした機会を設け知見を深めていき、自身の研究発表を通しさらに議論を発展させていきたいと考えている。



図 1. ポスター発表会場



図 2. 自由集会の様子

6. その他 (特記事項など)

本出張は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて実現することができました。本出張のために様々な手配をしてくださった皆さまに深く感謝申し上げます。